

## 1 . 魅力ある観光商品の造成と多様な交通モードの活用（北海道網走市・斜里町）

### ～ポイント～

新たに開設された航空路線を活用したマーケットの拡大

滑走路の拡張を契機による航空路線の新設・増設により、来訪者のマーケットを拡大するとともに、域内の周遊エリアの拡大を図っている。

オフシーズンの観光商品の造成による域内交通の充実

通年観光の推進を目的にした、流水観光、「知床ファンタジア」等のオフシーズンの定期イベントによる観光地としての魅力向上に伴い、地元の観光関連団体や行政などが、シャトルバスを運行し、域内交通の充実を図っている。

北海道の特性を活かしたレンタカーの充実と関連整備

観光地間の距離が比較的離れたエリアの多い北海道の特性に対応するため、レンタカー利用環境のほか、自動車道路の環境整備を促進させている。

### 1 ) 北海道網走市・斜里町の概要

網走市は、道東北部のオホーツク海に面した農・水産・観光業中心のまちである。市街地は、女満別空港から約20km、網走国立公園内に位置し、阿寒・知床国立公園の玄関口となっている。

2～3月には流水が接岸し、流水観光砕氷船「おーろら」の就航が当市の観光施策の目玉である。周辺には、阿寒湖、摩周湖、知床半島など、わが国有数の自然資源を持つ観光地があるため、網走市は周遊ルートの立寄拠点となっている。

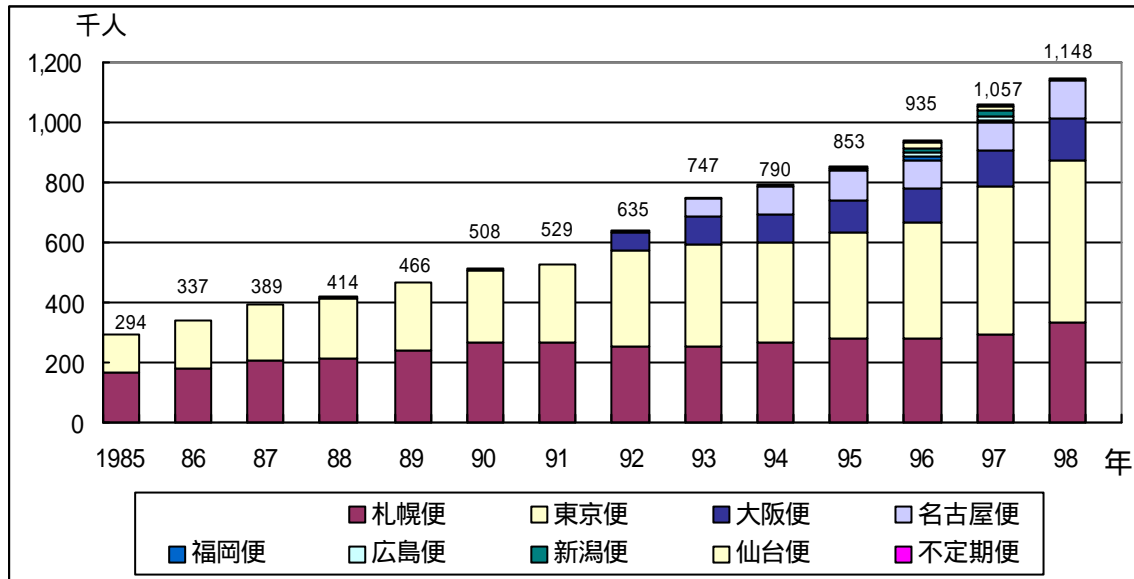
また、斜里町は、知床半島への玄関口にあり、北に100kmを超える海岸線を持つ細長い町である。女満別空港から斜里市街地までは、車で約60分でアクセスできる。知床観光の拠点であるウトロ（宇登呂）は、斜里市街地より国道334号を通過して、オホーツク海沿岸を約40kmの知床半島中央に位置している。

### 2 ) 交通施策の概要

#### 女満別空港の開設

- ・1963（昭和38）年 第三種空港として供用開始。91年までは、札幌便、東京便の2路線のみ運行。
- ・1985（昭和60）年 新女満別空港開設（滑走路長2,000m）。ジェット機就航が可能となった。
- ・1990年代前半 大阪便、名古屋便、福岡便が相次いで就航。
- ・1996（平成8）年 広島便、新潟便、仙台便が就航。
- ・1998年以降 福岡便、広島便、仙台便の3便が休航。
- ・2000（平成12）年 滑走路を2,500mに延長。
- ・2002年7月現在 1日に札幌（新千歳）便5本、東京便5本、大阪便2本、名古屋便2本、新潟便1本、函館便1本の計16本が運行。

1985年（新空港開港）以降の女満別空港の路線別旅客数の推移



出所) 網走市資料より作成

### レンタカーの充実

北海道の観光は、近年の観光旅行の個人・小グループ化に対応するため、レンタカーの利用環境が充実している。空港近くにはレンタカー会社が7社あり空港内にも窓口が設置されている。

斜里町市街地～ウトロを結ぶ国道334号の改良  
斜里町市街地と斜里町東部のウトロを結ぶ国道334号（海岸沿い）の急カーブの改良、道路拡幅等、道路拡幅が進んでいる。北海道は募集旅行によるバスの団体周遊旅行も盛んであり、国道の改良により、大型バスの通行が容易になった。しかし、現在でも、連続降雨量が70mm以上に達すると通行止めとなるため、斜里町では国道閉鎖時のマニュアルを作成し、分断されるウトロとの連絡体制を構築している。

女満別空港到着ロビー（レンタカー窓口）



国道334号（斜里町市街地～ウトロ区間）



### 3) 観光施策の概要

オフシーズン対策としての定期イベントの開催

ウトロ温泉の特設会場で、1987年より毎年2月上旬～3月上旬の間、「オーロラファンタジー」を開催している。開催期間中は、網走市から、夕方にウトロ温泉に入り、「オーロラファンタジー」を鑑賞してウトロ温泉に宿泊する等の観光商品が企画されている。

また、秋季には「知床番屋祭」、春季には、「海開け春一番祭りinしれとこ」を定期的で開催している。

#### < 施策実施の経緯 >

地元観光事業者によるオーロラの再現がきっかけ

知床地域は、地学的にオーロラが肉眼で観察できる南限とされている。昭和30年代にオーロラを肉眼で見たウトロ温泉のホテル経営者が、もう1度その姿を見ることを切望し、試行錯誤の結果、麦わらを燃やし、レーザー光線を駆使してスクリーンに上映することで、オーロラの再現に成功した。そこで、1987年より知床ファンタジア「オーロラファンタジー」として毎年開催するに至っている。

#### < 推進体制 >

地元観光関連事業者主体の取り組み

オフシーズン対策としての定期イベントは、いずれも観光協会、地元観光関連事業者による取り組みである。地元市町村は、各イベントの開催実行委員会に助成金を出しており、現場資材の手配等はボランティアの協力に依るところが大きい。

#### < 概算事業費 >

イベント開催に係る概算費用

\* 知床ファンタジア「オーロラショー」

：約4千万円

\* 知床番屋祭：約3.8千万円

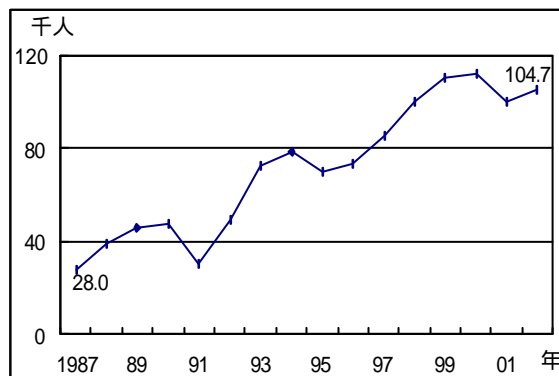
\* 海開け春一番祭りinしれとこ：400万円前後

オフシーズンに開催されるイベントパンフレット



出所) 知床斜里町観光協会資料

知床ファンタジア「オーロラショー」観客数の推移



出所) 知床斜里町観光協会資料より作成

### 流水観光商品の造成

1月20日～4月第1日曜日の間、網走市の民間事業者により、1日3～5便、所要時間約1時間の流水観光砕氷船「おーろら号」が運行されている。また、紋別港からも、1月20日～3月31日の間、1日4～5便流水砕氷船「ガリンコ号」が運行されている。「おーろら号」は、1990(平成2)年から、「ガリンコ号」は92(平成4)年からの運行である。

流水観光砕氷船「おーろら号」



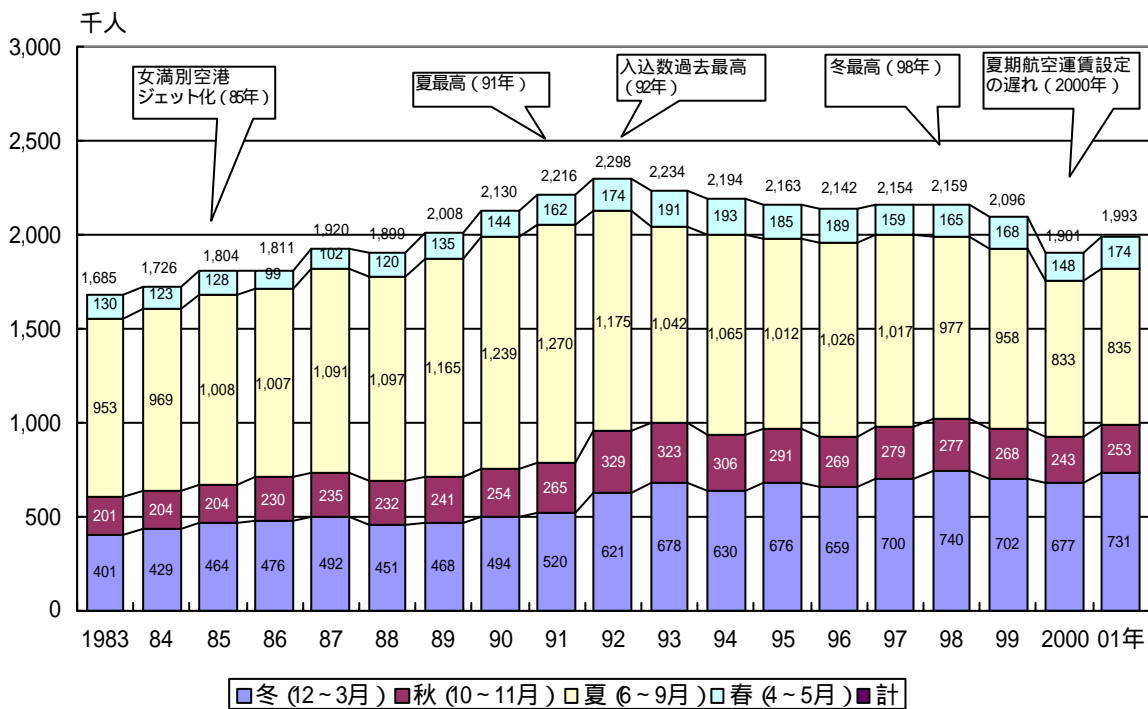
出所) 網走市資料

### 4) 交通と観光の相関性

女満別空港路線の開設による観光入込客数の増加

1985(昭和60)年の女満別空港のジェット化以降、網走市の観光入込客数は増加し、92(平成4)年には、過去最高の入込客数となる。

網走市の年度別観光客入込数の推移



資料) 網走市「観光客入込・宿泊施設利用状況」(2001年度)

オフシーズンのイベント開催等に合わせたシャトルバス、ロードバスの運行

「ひがし北海道観光事業開発協議会」バス事業部会は、秋と冬のイベント開催に合わせて、シャトルバスを運行し、域内交通の充実を図っている。斜里町観光協会は、運行費用について約25万円を負担金として拠出している。また、流水観光船、各シャトルバスの運行に合わせた、「流水ロードバス」も運行している。

シャトルバス、流水ロードバスの運行路



出所) 北海道観光プロモーション協議会、ひがし北海道観光事業開発協議会バス事業部会パンフレットより作成

### 5) 今後の方向性と課題

#### ハンディキャップを背負わされた地方航空路線

1999(平成11)年の航空法改正に伴い、国内空港運賃が自由化された。その結果、東京～札幌のような航空会社間の競争が激しい主要幹線は値下がりしたものの、東京～女満別のような比較的競争が少ないローカル線では、航空運賃は値下がりせず、主要幹線との料金差が広がってしまった。そのため、2000(平成12)年度春、各旅行会社の企画する東京を出発し女満別、釧路、中標津の道東三空港を利用する格安商品が減少した。

#### 航空法の改正の内容

・需給調整規制の廃止  
 運賃・料金規制の見直し  
 運賃・料金規制については、国際航空運送事業を除いて現行の許可制から事前届出制に変更する。また、利用者利便性を確保するため、運輸大臣(現・国土交通大臣)は、届手に係る著しく高い運賃・料金や略奪的な運賃・料金について、発動の利用を明確にしつつ、変更命令をかけることができる。(1999(平成11)年6月公布)

#### 体験・滞在型観光の定着化による網走観光の個性化

網走市の冬季の観光客入込数は、2001(平成13)年は約731万人と、1983(昭和58)年の約401万人の約1.8倍まで増加した。一方、夏期の入込数は、黙っていても(何もしなくても)観光客が来てくれるという意識でいたため、夏季入込客数としては過去最高だった91(平成3)年の1,270万人から、2001(平成13)年には835.1万人にまで落ち込んだ。今後は、ラフティング、乗馬など多様な観光客の嗜好への対応に成功した十勝、帯広と同様、家族・グループ型の観光客を対象に、体験・滞在型観光の定着化により網走観光の個性化を図る必要がある。

担当	北海道網走市経済部観光課 北海道斜里郡斜里町経済部商工観光課	連絡先	0152-44-6111(電話) 01522-3-3131(電話)
----	-----------------------------------	-----	--------------------------------------